

平成30年度 NTTデータシステム学生研究奨励賞(Text Mining Studio)応募用

## 主権者教育を推進するための高等学校及び地域の 連携・協働に関する調査研究

— 地域住民等に関する意識調査に基づいて —

静岡大学教育学研究科  
教育実践高度化専攻2年  
小林佐知子

## 問題の所在

- グローバル化の急速な進展や高度情報通信化に伴う産業構造の変化
- 少子高齢化が加速し、人口減少・流出社会の問題が顕在化
- 公職選挙法改正による選挙権年齢の引き下げ

### 【地域が抱える課題】

地域経済の縮小  
商店街の衰退  
医療・介護分野の人材不足  
地域コミュニティの弱体化  
地域の伝統行事等の担い手の減少 等

### 【学校が抱える課題】

不登校児童・生徒の増加  
他者とのコミュニケーション不足  
貧困・経済格差  
家庭・地域の教育力の低下  
子どもの体験不足 等

## 問題に関する教育動向

- 「学校や地域が抱える様々な課題に社会総がかりで対応するには、学校と地域の関係を、新たな関係として、相互補完的に連携・協働していくものに発展させていくことが必要である。」  
(中央教育審議会答申 「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」 2015. 12)
- 「地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等（多様な専門人材、高齢者、若者、PTA・青少年団体、企業・NPO等）が参画し、地域全体で学び合い未来を担う子供たちの成長を支え合う地域をつくる活動を推進する」  
(「次世代の学校・地域」創生プラン 2016. 1)
- 「社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養う」  
(「主権者教育の推進に関する検討チーム」最終まとめ 2016. 6)
- 「それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく、『社会に開かれた教育課程』の実現が重要となる」

(「文部科学省「高等学校学習指導要領総則」2018. 7)



地域住民等が高等学校に何を期待し、どのような資質・能力の育成を求めているのかを明らかにすることは、学校と地域の相互補完的な連携・協働関係を築き、主権者としての資質・能力を育成する上で重要。

## 研究の目的

- ① 地域住民がA高等学校生徒にどのような期待をしているのかを明らかにする。
- ② 地域を活性化するための高校生の活動を明らかにする。
- ③ 高校生の地域参加意識を高める市の取組を明らかにする。

上記①～③の比較・統合により、これからの社会に必要な主権者としての資質・能力を、高校と地域がどのように連携・協働し育成していくのかといった示唆を導出する。

## 調査の対象・方法

対象 B市民及び市内事業所勤務者 計150人

期間 平成29年10月18日～11月8日

方法 B市役所職員による配付

回収結果 有効回収数(率) 130人(86.6%)

## A高等学校の概要

### 県立A高等学校

- ・ B市内に所在する創立約120年の伝統校
- ・ 理数科・普通科設置
- ・ 生徒定員数 720人

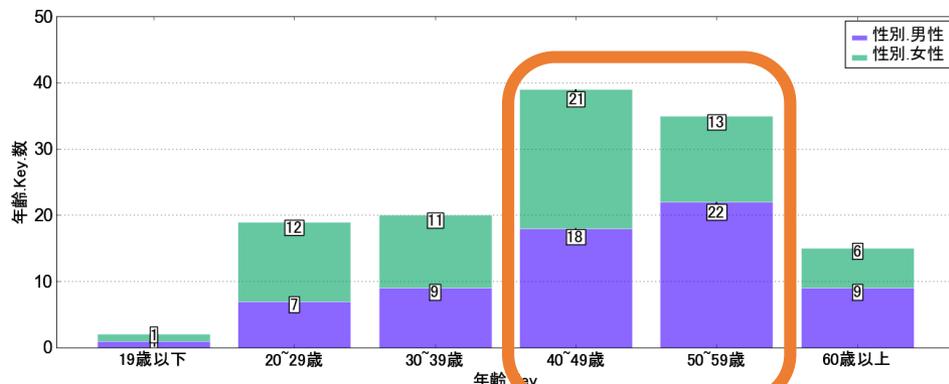
### 学校教育目標

- ・ 自律的な生活習慣と確かな学力を身に付け、創造力、思考力、コミュニケーション能力を伸ばし、心身ともに健康で調和のとれた人間教育を推進する学校
- ・ 将来の社会のリーダーの育成を目指し、積極的に地域等と連携しキャリア教育を推進する学校
- ・ 普通科・理数科の学科の特色を生かした教育を充実し、生徒や保護者、地域にとって魅力ある学校

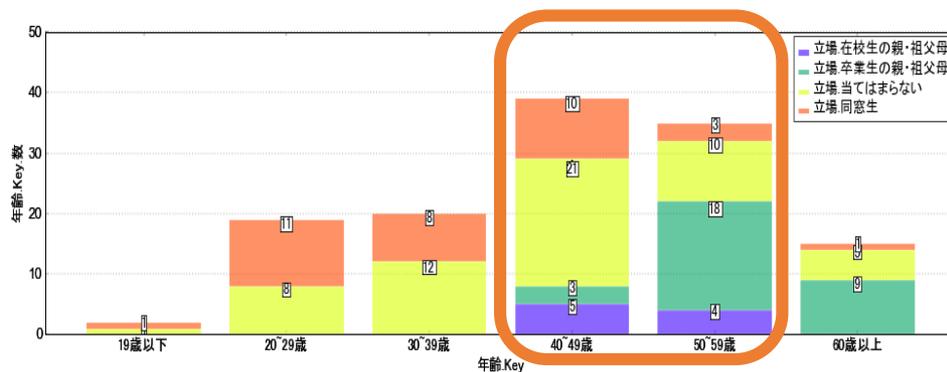


積極的に地域等と連携する「地域とともにある学校づくり」を推進している学校である。

# 回答者の属性



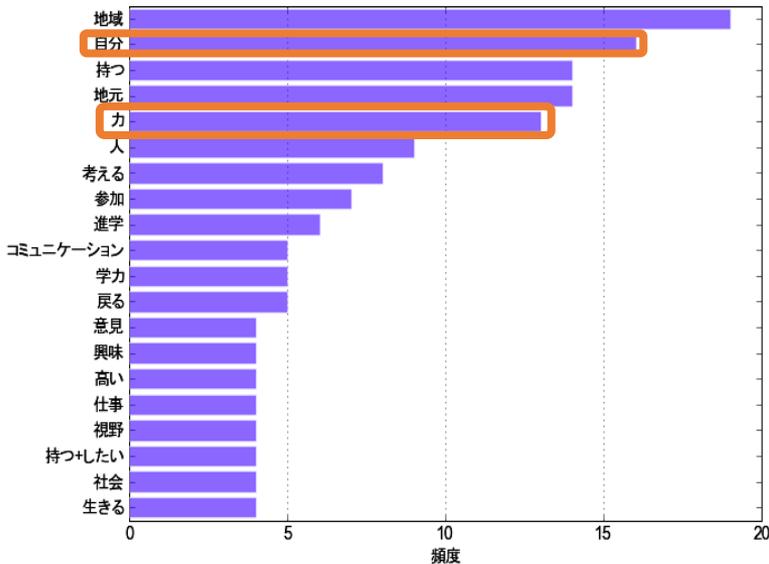
男女比は大差ないが、年齢が40~49歳が最も多く、次いで50~59歳になっており、全体の56.9%を占めている。



40~49歳の立場は親、祖父母、同窓生のどれにも当てはまらないが最も多く、50~59歳の立場は「卒業生の親・祖父母」が最も多い。

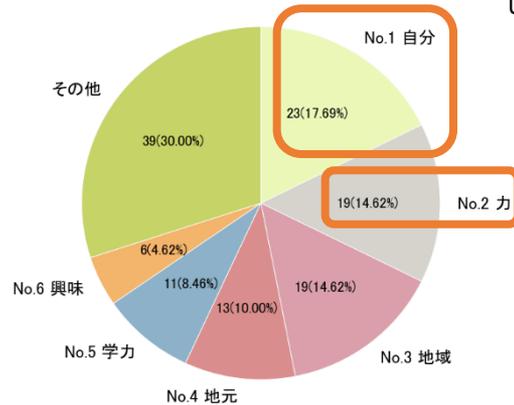
# ①A高等学校生徒への期待

単語頻度解析



対象とした自由記述からは延べ単語数704語、366種類の語が抽出された。上位20位までを数に示す。

話題分析(文章分類)



分類に用いる単語は頻度100単語(名詞のみ)を用い、6個のクラスタに分類した。

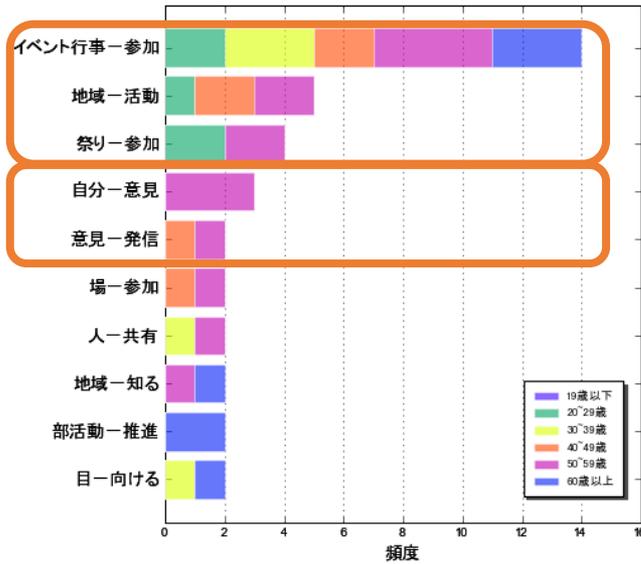
クラスタID	代表語	行
No.1	自分 自分 意見 進学	23
No.2	力 人 自分 コミュニケーション 社会	19
No.3	地域 地域 地元	19
No.4	地元 地元 参加	13
No.5	学力 学力 解決	11
No.6	興味 興味	6

単語頻度解析では、「地域」「自分」の頻度が高くなっているが、文章分類では「自分」や「力」について話題になっていることが読み取れる。



## ②地域を活性化する高校生の活動

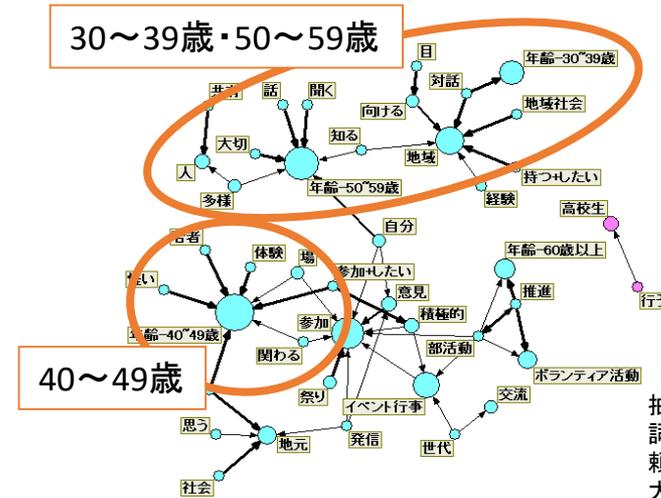
単語頻度解析(世代別)



対象とした自由記述からは延べ単語数573語、286種類の語が抽出された。上位20位までを数に示す。

「参加」と「発信」に関する単語が多くあらわれている。  
 「参加」はどの世代にも地域を活性化する活動として考えられていることが読み取れる。

話題分析(ことばネットワーク)



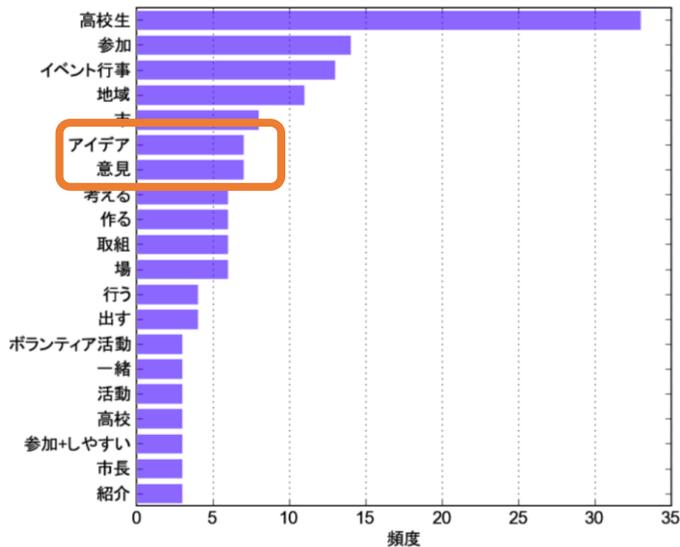
抽出することばは話題一般(名詞-形容詞・形容動詞・動詞・サ変名詞)、最低信頼度60に設定し、出現回数2回以上、最大で250ルールの共起関係を図示する。

40~49歳の世代は「体験」「場」「参加+したい」など高校生がイベントや行事に直接関わることで活性化につながると考えていることが表れている。  
 30~39歳、50~59歳の世代は「話」「対話」「聞く」「共有」など話し合いに参加することが活性化につながると考えていることが読み取れる。

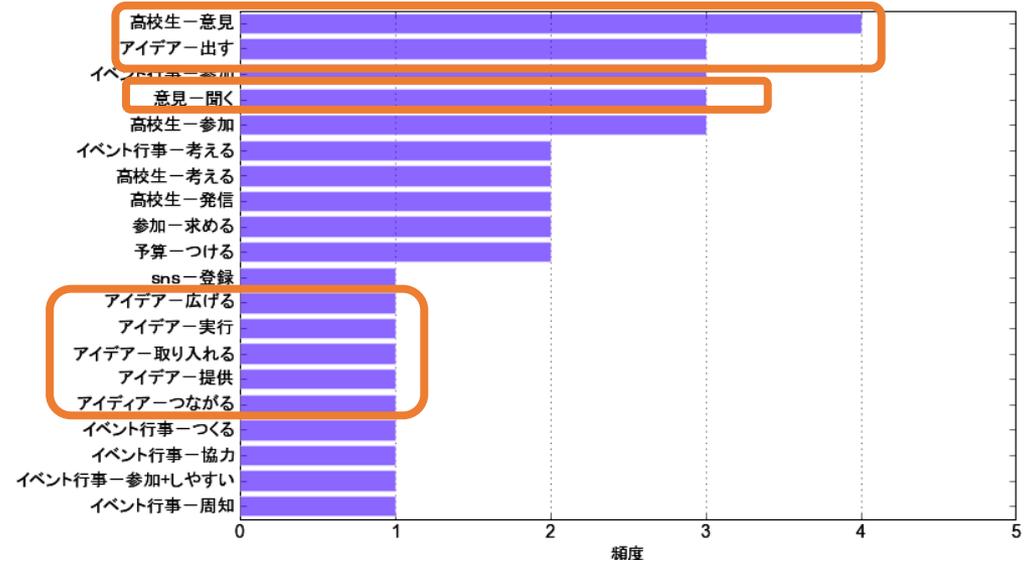
### ③ 高校生の地域参加意識を高める市の取組

対象とした自由記述からは延べ単語数586語、313種類の語が抽出された。上位20位までを示す。

単語頻度解析



係り受け頻度解析



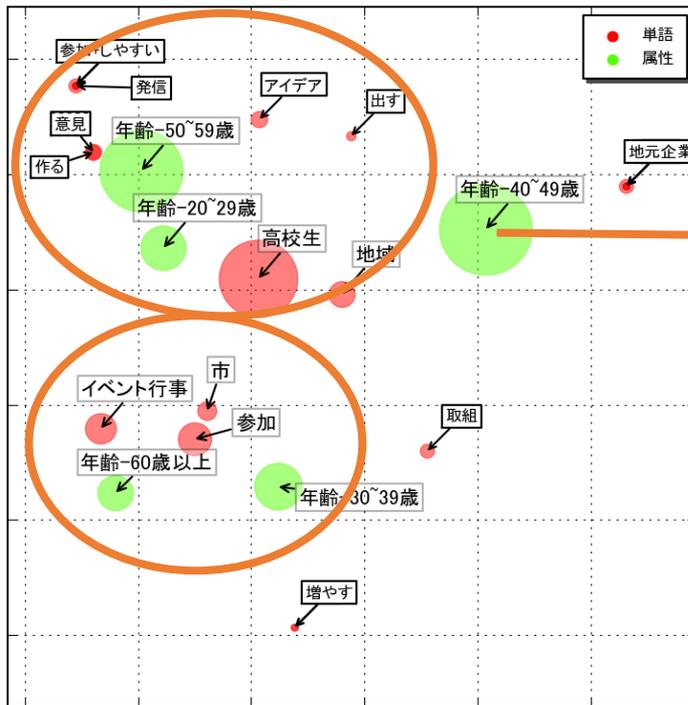
単語頻度解析からは「アイデア」「意見」といった語が多くあらわれた。係り受け頻度解析を行ったところ「アイデア」「意見」の係り受けが多くあらわれた。



高校生の意見やアイデアを市が取り入れ、実行するといったイベントや行事の企画、運営に関わる活動を高校生が行う事に対する要望が見られた。

# 高校生の地域参加意識を高める市の取組

## 対応バブル分析



属性と言葉の関係を各属性で2回以上現れる単語に設定し、図示した

## 特徴表現抽出

40~49歳			
アイデア-提供	1.806	取組-知る	1.806
シュミレーション-行う	1.806	取組-必要	1.806
プレゼン機会-与える	1.806	商工会議-傍聴	1.806
ボランティア-参加	1.806	場所-確保	1.806
ワークショップ-開催	1.806	場所-設置	1.806
意見-要望	1.806	生徒-交わる+できる	1.806
一般質問-傍聴	1.806	想い-投稿+できる	1.806
可能性-知る	1.806	大学-作る	1.806
各種イベント-参加	1.806	大人-見守る	1.806
学生-出す	1.806	段階-求める	1.806
企画-発案	1.806	知恵-絞る	1.806
議会-シュミレーション	1.806	地域-交わる+できる	1.806
議会-傍聴	1.806	地域-知る	1.806
空家問題-解決	1.806	地域-役立つ+ない	1.806
高校生-コラボ	1.806	地元企業-体験	1.806
高校生-巻き込む	1.806	認識-育てる	1.806
高校生-発案	1.806	発案-見守る	1.806
高校生自身-役立つ+ない	1.806	発想-出る	1.806
参加枠-設ける	1.806	分野-設ける	1.806
市-意見	1.806	B 市立大学-設立	1.806
市議-話し合う	1.806	役割-考える	1.806
市民-巻き込む	1.806	役割-認識	1.806
自由-投稿+できる	1.806	要望-出す	1.806

抽出する表現は「行動(名詞-動詞・サ変名詞)」に設定した

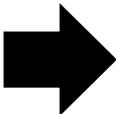
20~29歳、50~59歳の世代が高校生に「意見」や「アイデア」を「発信」することを求めており、30~39歳、60歳以上の世代は高校生にイベントや行事に「参加」することを求めていることが読み取れる。  
40~49歳の世代はさまざまな意見が出ていることがわかる。

# 考 察

①地域の担い手として、地域に愛着を持ち、課題解決に向けて他者と協働しながら、主体的に関わることができることを期待していることがあきらかになった。そのために必要なコミュニケーション力、課題発見解決力等の資質・能力を身に付けることがA高等学校生徒に期待されていることが明らかになった。

②地域を活性化する高校生の活動としては、「イベントや行事に参加する」ことがどの世代においても多かった。中でも40～49歳の世代は「体験」「場」「参加+したい」など高校生がイベントや行事に直接関わることが活性化につながると考えており、30～39歳、50～59歳の世代は「話」「対話」「聞く」「共有」など話し合いから参加することが活性化につながると考えていることが明らかになった。

③高校生の地域参加意識を高める市の取組としては、高校生の「意見」や「アイデア」を市が取り上げ、実行することへのニーズがあることが明らかになった。20～29歳、50～59歳の世代は高校生が「意見」や「アイデア」を「発信」する場を作ることを求めており、30～39歳、60歳以上の世代は高校生がイベントや行事に「参加」するよう呼び掛けることを求めていることが明らかになった。



今回の調査では、高校生が主体的に地域に参画することが地域を活性化すると地域住民等が考えていることが明らかになった。実社会の多様な人々や様々な課題に触れることで、主権者として社会参画するための「発信力」「協働力」「課題解決力」「対話力」等は身に付くと推測され、また、その力の育成が高校教育に求められている。高等学校においては地域住民等と連携し、実社会との接点を授業内外に創り出し、生徒が地域と関わることができる場と時間を創出することが重要となる。